

製品デザイン史

選 択

開講年次：3 年次後期

科目区分：講 義

単 位：2 単位

講義時間：30 時間

■**科目のねらい**：社会の変化とその時代によりデザインに求められるものは変化してきた。同時に、技術の進歩により、設計方法や製造方法、製品の材料等も変化してきた。その背景を知ることは、製品デザインの基本を知るうえで重要であり、デザイナーの見識と創造性の源となる。

ここでは、製品デザインをする上で知っておくべき近代以降のデザインと社会の関わりを、その時代においてデザインがどのような目的達成や価値創造を目指してきたのかを見ていく。また、製品メーカーにおけるデザインの変遷を、実例を通して学ぶ。

■**到達目標**：①製品デザインの歴史の背景となった社会環境変化の理解
②製品デザインの歴史を形成したデザイン意図の理解
③自らの製品デザイン史観を持てるようになる

■**担当教員**：

安齋 利典

■**授業計画・内容**：

- 第 1 回 オリエンテーション／製品デザイン史概要
- 第 2 回 ものづくりと産業革命／各種ムーブメント
- 第 3 回 産業とデザイン／分業と役割分担
- 第 4 回 ヨーロッパの製品デザイン
- 第 5 回 アメリカの製品デザイン
- 第 6 回 日本の製品デザイン
- 第 7 回 フィールド調査
- 第 8 回 メーカーに見るデザインの歴史1
- 第 9 回 メーカーに見るデザインの歴史2
- 第10回 メーカーに見るデザインの歴史3
- 第11回 製品デザインの歴史・事例
- 第12回 これまでの製品デザインと、これからの製品デザイン
- 第13回 自分のデザイン史観
- 第14回 総括・製品デザイン史のまとめ
- 第15回 プレゼンテーションと評価

■**教科書**：なし

■**参考文献**：「世界デザイン史」/阿部公正(美術出版社)、「日本デザイン史」/竹原あき子+森山明子(美術出版社)、「近代デザイン史」/柏木博(武蔵野大学出版局)、「欲望のオブジェ」/エイドリアン・フォーティ著、高島平吾訳(鹿島出版会)、「モノづくりの創造性」/野口尚孝、井上勝雄

■**成績評価基準と方法**：毎回の授業内容をまとめたレポート(300文字程度)40%、授業態度10%、最終回の発表内容10%、出席40%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート	◎	◎	○	毎回の授業のレポート	40%
授業態度	○	○	○		10%
発表			◎		10%
作品					
出席	○	○	○	2/3以上の出席(欠格条件)	40%
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：製品デザイン論、デザイン総合実習1～3

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：歴史的背景と製品の因果関係を意識すること。自主的に文献等を調べ、関心を持ったテーマについてさらなる研究をすること。自らのデザイン史観が持てるよう、授業内での発表を課す。また毎回講義の終わりに小レポートを作成し、理解を定着する。